芦屋市広報

発行所 芦屋市精道町93 芦屋市役所
発行人 芦屋市長 内海 清
編集人 山村康六
印刷所オール出版印刷KK
毎月1回5日発行定価2円
上履字は内海市長筆

再建計画達成の34年度

上半期の市財政は

好調な市税の伸び

庁舎建設など重要事業推進

今号では、昭和三十四年度上半期（四月―九月）の財政状況についてご説明します。

昭和三十四年度は、財政再建計画の最終年度で、過去四年間に成果をあげた財政運営を、将来とも軌道に乗せるよう予算編成に当ってはよく留意しました。

また、本年度は新庁舎建設をはじめ、市政上重要な事業や事務が飛躍的に押し進められることとなり、財政再建計画の終了と相まって市の恒久的発展の基礎となる年度といえます。

弾力性ある予算

一般会計

年度当初の予算編成に当っては、経常的経費と臨時的経費とに区分し、経常経費は年間所要額をよく検討のうえ計上し、臨時費についても事業の重要度、緊急性など勘案のうえ、それに見合う財源を確保して、健全財政を旨とした予算計上を行ないました。

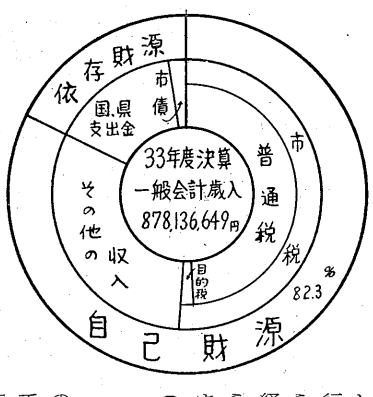
こうして予算総額は七億二千五百四十五万円となり、前年度に較べ一億六千五十五万円の増加となったのです。

当初予算の構成は、人件費、物件費等の消費的経費が三億二千九百四十五万円、市庁舎建設、第二阪神国道整備事業などの投資的経費が二億九千九百九十一万円、公債費八千十二万円、積立金六百九十五万円、繰出金九百万円となっています。

前年度の当初予算より増加した額の主なものは、新庁舎建設費七千万円、宮川線街路事業費など投資的経費で二千三百二十八万円、公債費（再建債繰上償還）一千七百五十二万円、国民健康保険事業への繰出金三百万円、積立金五百七十二万円、人件費等消費的経費で四千百一万円となっています。

一方歳入面では、市税の自然増をはじめとして事業費の増加による国県補助金の増、起債の借入などによって財源措置がとられたほか、財政運営の正常化にともなう前年度よりの繰越金、積立金穀よりの繰入金などをもって収支相つぐなっており、今後もかなりの弾力性を持った予算編成となっています。

このようにして当初予算を編成しましたが、その後し尿処理事業の市直営へ切換えなど行政面にかなりの改革がみられ、それに伴って四回に亘り、合計四千百二十九万円の追加更正が行なわれたため、昭和三十四年九月末における予算総額は、七億六千六百七十四万円となり、前年同期より五千五百七十九万円の増となりました



企業経営も順調

1、上水道事業

昭和三十四年四月一日より、公営企業法の適用を受け、企業体として順調な経営を行なっていますから決算期に改めて経営の状態をお知らせすることにします。

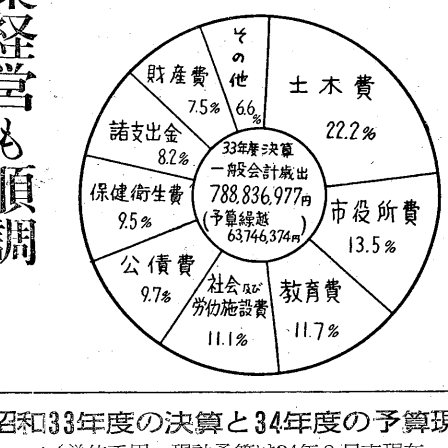
2、市立芦屋病院

昭和三十四年度の当初予算額は五千三百二十二万円で、昨年度に較べて二百七十四万円の減となっていますが、昨年度には懸案の診療棟などの改築工事が含まれていましたので、実質的には五百万円程度の増額となっていることになります。

これは年々病院の利用度が高くなったために生じる収入増で賄われ、将来完全看護を行なうための設備改善など、診療内容の充実のために充当し、病院経営の合理化拡充に努力している次第です。

3、国民健康保険

昭和三十四年四月一日より、長い間国民の要望していました健康保険事業が、いよいよ本市でも実施されることとなり、二千八百四十四万円の事業費で新発足しました。すでに保険の恩恵を受けておられる市民の方も多いのですが、本市は給付者のための保険であることを根本方針とし、給付者に有利な方式をもって保険事業の万全を期している次第で、とくに被保険者に対しては七割給付を実施しています。したがって予算内容も保険給付費が予算総額の七三%を占めており、一般会計から四百万円（一四%）の繰入れを行なって意欲的な経営を目指しています。



4、競馬・競輪事業

本年度の競馬事業は、五市競馬事務組合主催本市担当としてすでに五月及び九月の二回開催し、昨年に引続き予想外の好成績を挙げました。二回分の売上金の合計は一億三千七十二万円に達し、入場人員は延一八、五三〇人、収益額は一千万円が見込まれ、昨年度と同領程度（七百万円）の配分金を予定しています。

競輪事業は、四月に開催していますが、これも予想どおりの売上を示し、売上金一億二千九十四万円、入場人員は延二七、八七二人収益金は千三百万円となっています。

これらの収益金及び配分金は、いずれも新庁舎建設費、その他一般事業遂行のための貴重な財源として使用されることになっています。

33年度決算

右表のとおり

次ぎに昭和三十三年度決算についてはすでに概略を先般の「財政状況の公表」においてご説明いたしていますので、今回は具体的な数表でご理解いただきたいと思います。

本市の推計人口

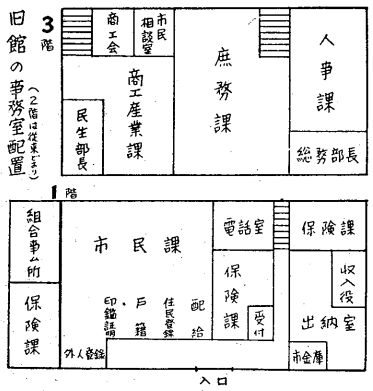
（10月1日現在）

人口総数	53,911
男	26,183
女	27,728
世帯数	12,775

市役所新庁舎建設ニュース

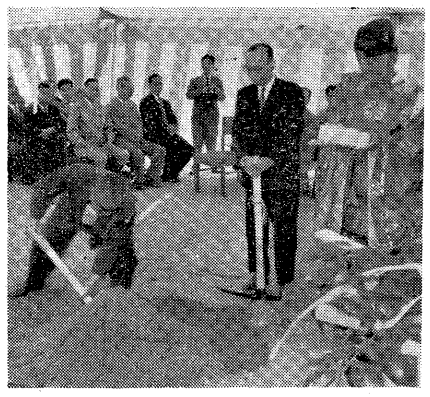
近く付帯工事入札

旧館事務室の位置かわる



新市庁舎建設事業は、その後施工業者間組との契約も十月六日の市議会で本決まりとなり、ついで十三日には新庁舎敷地で厳粛な起工式をとり行ないました。その頃から事務室の移転、在来建物の取こわしが始まり、近く電気、水道衛生、暖房等の付帯工事の入札や敷地の地耐力テストも行なわれることになっています。

支障建物の取こわしに伴ない事務室移転が行なわれた結果、市役所旧本館一階、三階の課の配置は上図のとおりとなりました。図以外で移転するのは水道部でその窓口は分室―精小講堂北側木造庁舎―の一階南端に移ります。（そのほかの課は従来の位置）



10月13日行なわれた新庁舎起工式でくわ入れする内海市長（中央）と牧村関経大阪支店長

義援金品ありがとう

台風被害地へ送りました

猛威をふるったあの伊勢湾台風のもたらした被害は、ご存知のとおり、想像に絶しましたが、このいたましい犠牲者へ、市には連日暖かい義援金品が集まり、福祉事務所では愛知、三重、滋賀、和歌山、奈良、山梨、長野の各県や、県内の但馬、丹波等の被災地へ前後十数回にわたり発送を終りました。募集は一応締切りましたが、集まった義援金品の合計は衣料五〇、四〇二点、雑貨四、四七〇点、その他六三五点、義援金は四七一、六四〇円（十月二十六日現在）でした。これらに対し被災地からみなさんの暖かいご同情に、礼状がたくさん届いております。

（右写真は救援物資積出し風景）

―人形講習のお母さん方―

被災地の子へ抱き人形

市立公民館の秋季市民講座「くるみ人形講座」講師山本愛子さんの受講生たち三十人は、水害でおもちゃを失くした子どもたちをなぐさめるため抱き人形を送ることを全員一致できめ、十月二十日臨時に講座をふやして、抱き人形四十体を作り上げ、慰問文をそえて早速桑名市の子どもたちへ発送しました。（右写真は心をこめて人形を作るお母さんたち）

昭和33年度の決算と34年度の予算現額

会計別 （単位千円・現計予算は34年9月末現在・以下同じ）

会計	昭和33年度決算 最終予算額	調定済額	収入済額	支出額	歳入出差引	昭和34年 現計予算額
一般会計	872,353	929,970	878,137	852,583	25,554	766,749
特別会計 上水道費	93,933	92,123	87,716	62,043	25,673	
特別会計 市立芦屋病院費	64,427	66,107	62,432	62,082	350	53,226
特別会計 地方競馬費	6,401	10,643	10,643	6,256	4,387	7,401
特別会計 競輪事業費	278,821	279,376	279,376	275,828	3,548	223,530
特別会計 国民健康保険						28,448
財産 打出芦屋共有山林	490	748	748	293	456	609
財産 芦屋	8	8	8	8	0	8
合計	1,316,433	1,369,975	1,319,060	1,259,093	59,968	1,079,971

一般会計 歳入

款	昭和33年度決算 調定額	収入額	昭和34年度予算 当初額	現計額
市税	484,669	444,924	436,781	446,921
地方交付税	500	500	1	1
公営企業及び財産収入	86,678	92,957	32,698	38,698
分担金及び負担金	1,396	1,335	1,644	1,644
使用料及び手数料	31,808	31,349	32,458	32,458
国庫支出金	118,519	120,077	106,779	109,390
県支出金	22,140	21,796	22,624	22,664
寄付金	25,918	24,845	22	22
繰越金	101,005	101,005	11,300	25,553
繰入金			20,000	20,000
雑収入	28,008	26,149	6,144	14,398
市債	3,200	13,200	55,000	55,000
歳入合計	903,841	878,137	725,451	766,749

一般会計 歳出

款	昭和33年度決算 支出額	翌年度繰越金	計	昭和34年度予算 当初額	現計額
議会費	22,199	0	22,199	20,852	20,853
市役所費	106,320	3,230	109,550	175,784	175,784
消防費	22,959	0	22,959	25,068	25,842
土木費	29,208	0	29,208	21,352	24,518
都市計画費	146,254	46,931	193,185	112,767	112,767
教育費	91,998	3,900	95,898	97,131	99,335
社会及び労働施設費	87,815	9,000	96,815	86,587	87,530
保健衛生費	74,802	0	74,802	68,755	86,254
産業経済費	3,102	685	3,787	3,352	3,352
財産費	59,456	0	59,456	7,865	13,780
統計調査費	128	0	128	164	164
選挙費	3,849	0	3,849	4,400	4,832
公債費	76,218	0	76,218	80,125	80,125
諸支出金	64,529	0	64,529	20,249	25,563
予備費				1,000	6,000
歳出合計	788,837	63,746	852,583	725,451	766,749
差引剰余金	89,300	△63,746	25,554		

起債現在高

（単位千円）

会計別	34年5月末現在高	34年4～9月償還額 元金	利子	差引現在高
一般会計	217,137	27,611	7,109	189,526
上水道会計	32,000	—	778	32,000
病院会計	13,393	2,245	435	11,148
計	262,530	29,856	8,322	232,674

市有財産現在高

（単位平方メートル）

区分	34年3月末現在高	34年4～9月 取得	売却	差引現在高
土地	701,375	91,426	330	792,471
建物	73,933	—	—	73,933
計	775,308	91,426	330	836,404

市税・負債の市民負担

（単位円）

区分	市税総額 一世帯当	一人当	市債 一世帯当	一人当
昭和33年度	33,936	7,995	20,849	4,907
34年度	34,149	8,038	17,817	4,193

来年9月の市長選挙に使用の

新選挙人名簿を

ぜひご覧ください

11月5日―11月19日

市選挙管理委員会で

（市役所南分室2階）

―今年は選挙制度ができて70年目―

明治22年2月21日……

―衆議院議員選挙法公布―

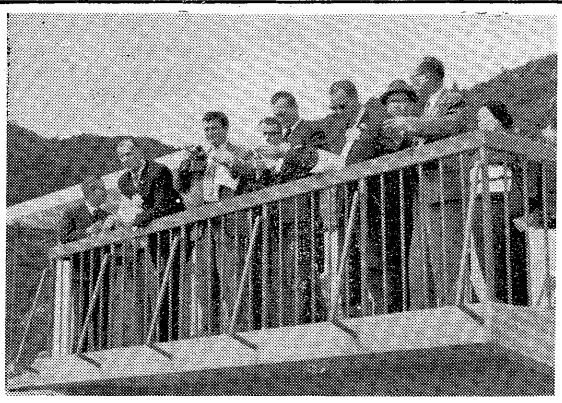
戸締りする手て火の締り

11月26日 12月2日 秋季火災予防運動

西独青少年指導者の一行
家庭や諸施設を歴訪
市青少年幹部隊員の歓迎にこたえる

日独青少年交歓事業は六年目をむかえ、ことしはドイツから五人の青少年指導者が十月十八日来日、本市をはじめ全国各地の青少年施設を視察して十一月三日帰国しました。一行はヨステン国会議員を団長に、少年団代表三名、レクリエーション促進協会代表一名からなり、芦屋市には十月三十日来訪しました。

その日一行は、まず芦屋庭球場と市霊園を訪れてすばらしい環境に感嘆したあと、打出翠ケ丘町の井上氏宅に立ちより、お茶や琴演奏などの日本のふん囲気を味わい、ついで芦屋ゴルフ場での市長主催の昼食会にのぞみました。午後は芦屋女子学園で生徒のゆかた踊りを見物、最後に山手幼稚園で芦屋市青少年幹部隊隊員の心からの歓迎をうけ、ドイツの青少年問題について記念講演を行なった後、芦山荘で一泊、翌三十一日尾道へ向いました。（上写真は展望台から霊園の景観をながめる一行）



霊園に〝ワンダフル！〟
米G・S指導者　ホール女史も来訪

アメリカガールスカウトの指導者エリザベス・ホール女史が、日本のガールスカウトの活動をはじめ日本各地の文化、教育、史蹟、風俗、習慣にいたるまでできるだけ広範囲に視察し、日本に対する理解と友情を深めるため、約三カ月間日本各地を見学しました。芦屋市には、十月七日来訪し、庭球場で市長さんと昼食を共にしました。午前中は精道幼稚園、精道小学校、芦屋保健所を訪問しましたが、午後からは阿保親王塚、霊園を見学し、そのすばらしさにワンダフルを連発していました。

最後に打出焼を見学し、自らも制作してその傑作を持ち帰りました。（左写真は内海市長から色紙を贈られる ホ女史―右端―）

第八回定例市議会報告
伝染病舎建設など可決
教育委員に北村氏を再任

さる十月六日召集の第八回定例市会は、午前十時に開会され議長から会期一週間の宣告と、市長から提出議案の概略説明があったのち、順次議案の審議が行なわれました。

先ず第一日目は、報告第三号処分報告から審議に入り、今般し尿処理事業の市直営実施決定にもとづき直営切替と同時に汲取作業の方全を期するためこれに必要な車輌買入の契約を締結した旨報告がなされ、専決第二号物件買入に関する契約の締結で緊急を要するため兵庫ダイハツ販売株式会社との間にダイハツ三輪自動車三輌の購入について契約しており、審議の結果了承されました。

第六十五号議案財政再建計画の変更は、市税の自然増収、財産の売却金、前年度の剰余金等が既定計画を相当上回るので、財源の一部をし尿処理事業直営切換に伴う増、その他に充当するとともに三千万円余の積立金とするための議案で概略審議ののち、総務常任委員会付託となりました。第六十六号議案芦屋市教育委員会の委員の任命については、市長から打出浜町九二北村辰夫委員の任期が満了したので引続き同氏を任命したいという趣旨が述べられ、多数を以って可決されることになりました。

次に六十七号議案保険給付の一部を資金前渡できるよう（助産費、保育手当金、葬祭費を届け出の際即時給付し、事務手続上の迅速と該当者の利便を図る）提案がありこれを可決したが、付帯意見として市内二、三の医師が未だ保険証による診療を取扱わぬことを指摘し、市当局がさらに積極的接衝を行なって、全医師が保険取扱いするよう善処すべきであると強い要望が付されました。

六十八号議案市立精道病院の建設については、現病院は市外地に所在する上に、常駐医師がなく、しかも老朽が甚だしいため、伝染病院隔離病舎としての機能を発揮するのに不十分であるので、現存施設を処分して市立芦屋病院に併設し、伝染病発生時の医療措置の完全を図ろうとするもので、このほど国庫補助の確定をみたので来る四月までに完成したいという提案の説明があり、鉄筋コンクリート造二階建本館一棟並びに木造平家建消毒室、渡廊下、坪数延二四二・四七坪の計画について審議された結果、消毒室もこの際鉄筋にすべきではないか等意見があったが経費の点並びに機能的に支障がないことが説明されて可決しました。

ついで六十九号議案昭和三十四年度兵庫県芦屋市歳入歳出追加更正予算については四つの各常任委員会付託となり、七〇号議案特別会計国民健康保険費歳入歳出追加更正予算（第一号）は先の付託議案とともに民生常任委員会に付託されることになりました。

七十一号議案予算外義務負担の工事請負契約の締結の件は、庁舎新築工事を施工するについて、指名競争入札を行なった結果一億四千百七拾五万円で間組の落札が決定したので、これに伴う工事請負契約を締結せんとするもので、工事完成が明年度にわたる関係上予算外義務負担の承認を得たいと説明があり、請負金額の他、支払方法、契約保証金等の契約書について審議の結査これを承認して散会しました。

次にこの会期第二日は十月九日午後一時から再開し、議長から議事日程の報告があってのち、まず第七十二号議案では芦屋市一般職の職員の給与に関する条例の一部改正する条例の制定について、また第七十三号議案芦屋市特別職の職員の給与に関する条例の制定について、総務常任委員会に付託となり、結論を出すまでになお細部の研究を行なうことになりました。

七十四号議案打出芦屋共有地の交換は、奥山一番地の十一堀助次郎氏から住宅増築用地として願出があったので払下げ、同時に隣地も売却するので境界を調整して交換処分しようとするものであるが、差引三拾七万九千三百四十円市の収入となるもの。

また七十五号議案打出芦屋共有地の売却について、財団法人松尾育英会が乗用自動車駐車場として雅叙園観光株式会社に賃貸し、育英奨学事業資金としたいとの払下げ願いがあり、打出芦屋共有財産管理委員会の承認を得たので売却するよう市議会の議決を求めたもので、これは、奥山一番地の一山林五百六十七坪一合五勺を売却価格百九十八万五千二十五円（坪当三千五百円の割）となっています。最後に七十六号議案土地売買契約の締結は、先の財団法人松尾育英会に対し、打出芦屋共有地を売却するについての売買契約締結であるがともに総務常任委員会に付託として散会しました。

会期最終日の十月十二日は十時から開会されたのであるが、休会中各常任委員会に於てそれぞれ付託議案を審議した結果について委員長報告がなされました。

七十四、七十五、七十六号三議案は総務常任委員長報告で、未だ結論に至らず継続審議となっているが、その他の付託議案については、原案通り了承という報告があったので各常任委員長報告に基いて順を追って採決の結果、いずれも報告どおり決定して、閉会しました。

伝染病舎は中旬に着工

前号既報、市立芦屋病院敷地内に建設される伝染病隔離病舎―鉄筋二階建、二十五床―は本十一月中旬着工することになりました。完成は来年春です。

お米屋を替えるには

皆さんが現在配給を受けておられるお米屋さんの登録変えを希望される方は、11月16、17、18日の三日間に受付ますから、お米屋さんで米穀通帳に配給代金精算済の印をもらい、認印を持って市民課登録配給係へお出でください。なお米飯提供業者もこれに準じて変更の手続きをしてください。ただし登録変えを希望されない方は現在のままのお米屋さんに登録されることになりますからこの手続きはいりません。

原動機付自転車の標識とり替え

このたび法令の改正により、原動機付自転車の標識の取替を行ないます。第一種、第二種の原動機付自転車（50・90・125CC）をお持ちの方で取替通知書の配布をうけた方は、指定の日時に通知書と印鑑をご持参、指定場所へおこしください。

日時　11月9・11・12日、午前9時から午後4時30分まで。

場所　精道小学校講堂前

取替手数料　無料（旧標識を持参されないときは百円いただきます）

・旧標識を取りはずして持ってこられても結構です。

・指定日が雨天のときはその翌日おこしください。

・無効の告示後、旧標識のままで使用すると登録違反の対象になります。

引揚者の方へ

引揚者給付金の請求書は昭和三十二年から受付ていますが、まだ出していない方は、できるだけ早く市福祉事務所へ提出してください。期限は昭和三十五年五月十六日ですが、それまでに請求書を出さない人は権利がなくなりますからご注意ください。

計量器定期検査

取引き、または証明用の計量器は、定期検査ごとに必ずその検査を受けなければなりません（受けないと罰則があります）。県計量課員による昭和三十四年度の定期検査が次の日どりで行なわれますから、計量器を検査場へお持ちください。お間合せは市商工産業課へ。

日どり…検査日（検査場）受検区域の順。時間は午前九時から午後三時まで。

11月9日（甲陽市場事務所）公光大桝・茶屋・宮塚各町

11月10日（大原市場の廉売場）大原、松ノ内、船戸、東山、六麓荘、朝日ケ丘、岩園、業平、上宮川、親王塚の各町と剣谷

11月11日（打出公会堂）打出南宮、打出若宮、打出小槌、打出春日、打出浜、打出翠ケ丘、打出大東、打出西蔵、打出楠の各町

11月12日（三条青年会館）前田、清水、月若、西芦屋、三条南、西山、三条、山手、山芦屋、東芦屋の各町と城山、奥山

11月13日（精道小学校講堂）呉川、宮川、伊勢、竹園、精道、松浜、浜芦屋、平田、川西、津知の各町

精道中増築始まる
六教室分　来春に完成

本年度の学校建設計画の一つとして、精道中学校の増築工事が始まります。現在までの新校舎の西側に接続して、普通教室五と、事務室、校長室を収容する三階建て、来年春ごろ完成する予定です。

さらに舗装工事

市道舗装を進めている市では、簡易方式による舗装工事を行なっています。すでに親王塚町中央南北線三百六十一㍍を十月中旬に完工、また平田町で七百三十一㍍の舗装を下旬に施行しました。

別に、三条南町では中央南北線百八十八㍍のコンクリート舗装を、浜芦屋町では都市計画道路の歩道舗装をそれぞれ失対事業で施工中です。また失対事業で市内各所の路肩工事を行なっています。

芦屋川に第二国道橋

第二阪神国道建設事務所では近く芦屋川に新橋を架設する工事を始めます。工期は昭和三十五年度末までで、まず旧国道の永保橋に南接して二十五㍍巾の新橋を築造し、つづいて旧橋をとりこわし、五十㍍巾とする計画です。

完工間近い大東町の市営住宅の抽せんは、十一月十五日（日）午前十時から宮川小学校講堂で行ないます。抽せん資格者は、住宅困窮者登録をすませた人で、市から資格通知を出した人に限られます。資格通知を受けた人は、十一月八、九の二日間市建築課で午前九時から午後四時まで受付をしますからおいでください。なお、南宮町に建築中の第二種市営住宅は完工期日の見通しがつき次第お知らせいたします。

市営住宅の抽せん

市民相談室へ

◇家事・身上の心配ごとは…相談室へ
◇職業のご相談は……相談室へ
◇土地・家屋のもめごとは…相談室へ
◇貸借関係は……相談室へ
◇法律問題の質疑は……相談室へ

市民相談室はいつでも、またどんなことにも親切・迅速・秘密にあなたのご相談相手になります。

◇紙上相談欄……匿名希望の人は手紙で……市広報で回答します

市役所3階・市民相談室（2121～3）

11月の市民ハイキング

十一月のハイキングは、晩秋の一日を紅葉と古寺の大和路へ行きたいと思います。多数ご参加ください。

日時　十一月八日(日)雨天ならば十五日(日)

集合　市役所前へ午前八時

コース　芦屋―梅田―天王寺―笠置…笠置山…柳生下…忍辱山（円成寺）…石切峠…春日山石窟仏…滝阪…近鉄奈良駅―芦屋（七時ごろ帰着）

行程　十六㌔㍍（家族向）

会費　大人　三八〇円　小人　二一〇円

携行品　昼食、水筒、雨具、履物は運動靴か登山靴のこと。

栄える市政　支える市税
市民税第3期分督促納期限は　11月30日

灰を集めにいく日
収集車到着の合図は呼子笛です

町名	34年11月	12月	35年1月	2月	3月
三条	2・16	1・12	7・20	1・11	1・14
山芦屋	2・16	1・12	7・20	1・11	1・14
西山	2・16	1・14	7・20	1・12	1・14
山手	2・16	1・14	7・20	1・12	1・14
東芦屋	4・17	2・15	8・21	2・13	2・15
東山	4・17	2・15	8・21	2・13	2・15
六麓荘	4・17	2・15	8・21	2・13	2・15
朝日ケ丘	4・17	2・15	8・21	2・13	2・15
岩園	4・17	2・15	8・21	2・13	2・15
翠ケ丘	4・17	2・15	8・21	2・13	2・15
親王塚	4・18	3・15	9・21	2・13	3・16
大原	5・18	3・16	9・22	3・15	3・21
船戸	5・18	3・16	9・22	3・15	3・16
松ノ内	5・18	3・16	11・22	3・15	3・16
月若	5・18	3・16	11・22	3・15	4・17
西芦屋	6・19	4・17	11・23	4・16	4・17
三条南	6・19	4・17	11・23	4・16	4・17
清水	6・19	4・17	12・23	4・16	4・1
前田	6・19	4・17	12・23	4・16	5・18
業平	7・20	5・18	12・25	5・16	5・18
上宮川	7・20	5・18	12・25	5・17	5・18
楠	7・20	5・18	12・25	5・17	7・19

町名	34年11月	12月	35年1月	2月	3月
春日	9・20	7・18	13・25	5・17	7・19
小槌	9・21	7・19	13・25	6・17	7・19
宮塚	9・21	7・19	13・25	6・17	8・21
茶屋	10・24	8・21	14・26	6・18	8・21
大桝	10・24	8・21	14・26	8・18	8・21
公光	10・24	8・21	14・26	8・18	8・21
川西	11・24	8・22	14・26	8・18	9・22
津知	11・25	9・22	14・26	8・19	9・22
平田	11・25	9・22	14・26	8・19	9・22
精道	11・25	9・22	14・27	9・19	9・22
宮川	11・25	9・22	16・27	9・19	9・22
若宮	12・26	10・23	16・28	9・19	10・23
大東	12・26	10・23	16・28	9・20	10・23
南宮	12・26	10・23	18・28	9・20	10・23
浜	12・26	10・23	18・28	10・20	10・23
西蔵	12・26	10・23	18・28	10・22	11・24
呉川	13・27	11・24	19・29	10・22	11・24
竹園	13・27	11・24	19・29	10・22	11・24
浜芦屋	13・27	11・24	19・29	11・23	11・24
松浜	13・27	11・24	19・29	11・23	12・25
伊勢	13・27	11・24	19・29	11・23	12・25

2・16は2日と16日の意味（雨天で順延するときがあります）

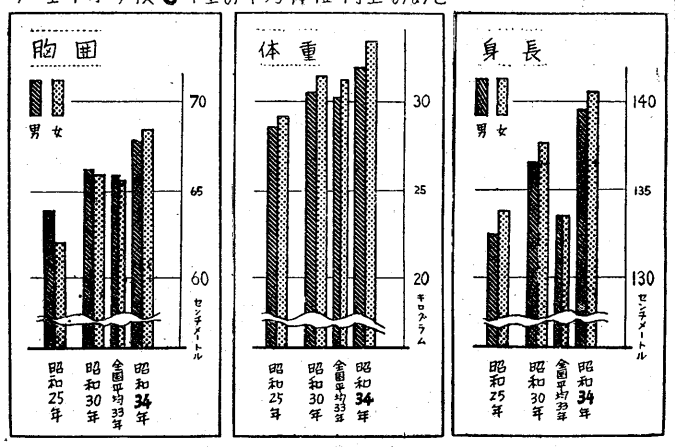
芦屋の子のからだ

全国平均はるかに上回る すばらしい発育ぶり

市教育委員会では、ことしの生徒、児童、幼児（市立学校園のみ）の体位平均を算出していましたがこのほど別表のとおり発表しました。本年度は芦屋から健康優良児兵庫県一を出し、それも全国の十人の中に選ばれ日本一を目指すほどの成績を挙げただけに、平均体位の向上も一段とすばらしく、県や全国の平均をはるかに上まわっています。

第一に目につくのは身長ののびが著しく、とくに女生徒が大きくなっているようです。

芦屋市小学校6年生の平均体位 向上のあと



次に、体重は男女共平均していますが、さすがに中学校三年になると男子の方がぐっと重くなって、その発育ぶりが目立っています。

胸囲は何といっても女子の方がよくのびていますが、これは戦後の女性の特質をよくあらわしているものの、全国、県平均と比較すると男女共身長、体重の増加に比べてやや見おとり、どちらかといえば細長いタイプに近いようです。

この点は学校体育関係者も特に力を入れて、ここ数年努力してきているところで、さらに胸巾の太い日本人にしなければいけないと考えています。

坐高は余り差がありませんが足の長くなった事はたしかで、それはとくに男子にいちぢるしいようです。

全般的に年々全国平均も上昇線を描いていますが、芦屋市のこどもの体位は、それをさらに上回っていて、そのカーブは低学年は標準線にあり、小学校の四、五、六年で急速に発育線の増加の率が大きくなっています。また、女子の発育が、男子に比して甚しく良くなっていることが目立ちます。

グラフは参考までに小学校六年男女の平均を昭和二十五年、三十年のものと比較して見ました。

昭和34年5月体位表

満年令		4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
身長 cm	男	102,4	106,2	113,8	118,7	124,2	129,2	133,6	139,5	143,9	150,9	157,6
	女	102,0	104,3	112,6	117,5	123,7	129,0	135,0	140,5	141,5	152,5	158,4
体重 kg	男	15,9	17,3	19,2	21,3	23,4	26,0	28,5	31,9	35,8	41,0	44,6
	女	15,5	16,1	18,6	21,1	23,7	25,9	29,8	33,3	40,2	42,4	42,7
胸囲 cm	男	54,4	54,5	57,0	57,1	60,7	62,6	65,5	67,8	69,3	72,3	79,5
	女	51,6	52,9	55,6	57,0	59,3	61,4	64,0	68,4	70,9	74,5	78,5
坐高 cm	男	57,9	61,3	63,2	63,0	67,0	69,3	70,9	73,7	78,0	81,6	85,3
	女	57,4	60,0	61,0	64,2	65,7	69,9	70,5	74,8	80,4	82,6	87,6

〃飼犬道徳〃 八カ条

ただいま「犬を正しく飼う月間」

十月十五日から一カ月間、兵庫県下で「犬を正しく飼う月間」が行なわれ、飼主のみなさんへ他人の迷惑とならぬ犬の正しい飼い方を呼びかけています。お宅は大丈夫と思いますが、念のためにお読みください。

一、飼い犬は登録、狂犬病予防注射を受けて、鑑札、注射済票を犬の首輪につけておくこと。
二、飼い犬をみだりに放し飼いしないこと。
三、道路、公園その他大勢の集まる所に犬を出すときは、充分なれた人が、つな、くさりをつけてつれて歩くこと。
四、かむくせのある犬には必ず口輪をつけ、管理には特に注意すること。
五、公共の場所、建物をよごしたり、ごみ箱を荒し、所かまわず脱糞させるなど、環境衛生の向上と市街の美化を阻害するような行為をさせないこと。
六、不要犬はみだりに捨てず、必ず保健所に届出ること。
七、人をかんだ犬の所有者、または犬にかまれた人は直ちに保健所に届出とその指示を受けること。
八、犬小屋の内外を清潔にし、うじ、はえの発生を防止すること。

ジフテリヤと百日咳の予防接種

10月号広報でお知らせしましたが、ジフテリヤ、百日咳の第二回目の予防接種を行ないます。該当する赤ちゃんは生後三カ月から六カ月の乳児です。料金は六十円ですから母子手帳をご持参の上必ずお受けください。時間は午後二時から四時までです。

11月18日　保健所
11月19日　打出公会堂
11月20日　山手幼稚園

なお、第三回目の予防接種は12月14、15、16日に行ないます。

11月の育児教室

会場は芦屋保健所、時間は各日とも午後一時半から三時まで、医師、保健婦、栄養士による指導が無料でうけられます。

11月10日　8—12カ月の乳児のお母さんに「冬の伝染病」「おもちゃの選び方」「冬の幼児食の組合せ（実演）」
11月17日　2—4月の乳児のお母さんに「赤ちゃんの感冒と予防接種について」「冬に備えての皮膚の鍛錬」「離乳を始める前に（実演）」
11月24日　5—7月の乳児のお母さんに「呼吸器病について」「赤ちゃんの睡眠」「レバーやチーズを使いましょう」

戦没者慰霊祭

さる十月二十五日精道小学校講堂で、本市出身戦没者八百六十柱、戦災死者七十四柱の慰霊祭が約千名の遺族と多数の来賓が集まり、遺族会の主催で行われました。岸田会長らの祭詞や精道中学校生徒の哀悼の歌が霊前に捧げられ式後遺族は慰問演芸を楽しみました。

市民の幸福と事業の発展を期し 簡易保険 加入者の会開く

秋晴れの十月二十日午後二時から第四回芦屋簡易保険加入者の会が芦屋郵便局で開かれました。簡易保険加入者の会は、加入者の共同福祉の増進と事業の発展をはかるため、昭和三十一年七月に設立され毎年一回定期会合が開かれ、加入者皆様のため事業発展のため大きな貢献をしてきました。

当日は、会長増田稲三郎氏から簡易保険積立金が芦屋市に対し本年九月末現在七千六百万円融資され、義務教育施設の充実、公営住宅の建設その他各種事業に使用され国際文化住宅都市として芦屋市の発展に寄与している点について発表がありました。次いで芦屋郵便局長立石秀一氏から、簡易保険が国民各層の支援により、全国の普及状況は、契約件数四千五百万件、契約保険金額一兆八千億円、積立金五千五百億円に達しており、これらの積立金が低利で地方公共団体に融資され、学校、住宅、病院、道路、河川、港湾、防潮堤の修築、上下水道、その他電気、ガス、運輸通信事業、中小企業、農林漁業、災害復旧等に融資されている旨、また、過般の伊勢湾台風に際しては、早速五十億円の融資を行い被災地区の復興に寄与している旨の報告があり、更に国民福祉施設として、簡易保険診療所、診療自動車、診療船による巡回診療の活動状況、加入者ホームの利用状況、簡易保険局が、NHKと共催している、ラジオ体操、美容体操の普及状況等について報告し、目下展開中の「契約高二兆円達成促進簡易保険新加入運動」について市民の皆様の協力を要請するあいさつがありました。

次いで昭和三十四年度新役員改選の結果、会長に増田稲三郎氏、副会長に金井保氏外（役員、代表者氏名は末尾記載）が選出されました。

次いで、局側から芦屋市における簡易保険、郵便年金の普及状況、最近におけるサービス改善事項について報告がありました。その内重なものは、

一、保険料率の引下げ
一、配当金の引上げ
一、団体保険料割引率の引上げ
一、郵便年金第二封鎖にかかる年金の支払開始
一、家族保険の創始
一、団体貸付制度の開始
1、貸付の目的、加入者の保健衛生施設、厚生施設、その他共同の利益をはかる施設を営むためのもの
2、貸付額、月額保険料に三十倍を乗じた額の範囲内
3、貸付期間、三カ年
4、貸付利率、年六分
一、簡易保険指定旅館の設置等の報告があり、事業に対する活発なる意見の交換がありました。

次いで、つぎの二項目を決議し、簡易保険局長へ提出することとしました。

一、保険金最高制限額三十万円に引上げ
一、保険料所得税よりの控除額三万円に引上げ

以上をもって盛会のうちに閉会しました。

昭和三十四年度簡易保険加入者の会　新役員（順不同）

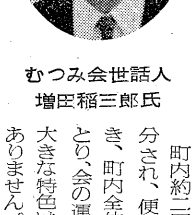
会長　増田稲三郎
副会長　金井保
理事　伊藤秀三、中島富蔵、細谷光子、吉井清、大ケ瀬信一、辻井幸、大原いさ子、島谷政宏、小谷武雄、河井新八
顧問　内海清、立石秀一

共同募金お礼

毎年十月にご協力願っている共同募金は、みなさまの絶大なるご支援を得、今年度も目標額をこえることができそうです。紙上から厚くお礼申し上げます。なお、目標額をこえた分は市社会福祉協議会に還元され、いろいろな福祉事業に役立てられます。

町の自治組織 ㊀ ご紹介 ①

市内四十三町のうち、そのほとんどが自治組織を結成し、町の民主的な建設発展に、また町民の福利増進に日夜努力をつづけておられます。その行なう事業は広報公聴、町内の衛生改善、防犯防火、納税や貯蓄、また最近では国民健康保険業務に関することなど、組織によって多少の違いはあっても、その町のため、町民のためという終局の目的には変りありません。この自治組織の始まりは、昭和二十九年四月に産声を上げた茶屋之町のむつみ会で、最近では昭和三十四年八月に南宮町の南宮会が組織されました。こうして各町で世話人の方々の献身的な努力が実を結び、芦屋の街が日に日に充実していくのは嬉しい限りです。ただ考えてみなければならないのは、これらの組織があくまで市民の方々が民主的な協力の必要を感じ、自然発生的につくられるべきだということです。戦争中そのままのような隣組の再現はさけねばなりません。もちろん戦時中の隣組でも一部の弊害はあったものの、それら下部組織が地方政治のスキ間を埋め民意を押出す作用をしていたことは争えません。自治組織がもたらす効果についてはいろいろお聞きと思いますが、今号から各町組織の効果、利点について、また組織を結成するまでの経過などを集録し、あなたの町の参考に供したいと思います。またこれが、未結成町に組織結成の機運をかもし出すことになればとも考えています。なお現在までの組織の数は町内会14、衛生組織30ですがこの数は浜芦屋町のように衛生組織を三つも持っていたり一つの町で町内会と衛生組織の二つを組織して活躍しているところもかなりあるので、市内四十三町のうちにはまだ組織の全くないのが十町残っています。



むつみ会世話人
増田稲三郎氏

茶屋之町 むつみ会

茶屋之町のむつみ会は昭和二十九年、増田稲三郎、浜淵善一両氏が世話人となり四月に発足しました。最初は文化、福祉、親睦、互助、清潔、保健の六つの美を結ぶつながりとして、その名も六つ美（むつび）会と呼んでいましたが、それをもじってむつみ会とし現在に至っています。当初はこの六つの目的を表看板にかかげていましたが、間もなく茶屋之町が衛生のモデル地区に指定されたのを機に、会の中心も必然的に衛生問題へと集中しました。

会の運営

町内約二四〇の全世帯が十五地区に区分され、便宜上各区に世話人一名をおき、町内全体の世話人二名と共に連絡をとり、会の運営に当っています。この会の大きな特色は、会長もいなければ規約もありません。世話人の増田さんは「組織は各人がその必要性を認識し、納得して自然発生的につくられるのが理想で、会長を選び規約をつくりそれから組織をつくるという順序は、一応常識的な方法であるが、この方法でつくられた組織には形がりっぱで実がともなわないことがよくある。形にとらわれず、一人一人と手をとり合って全体をよくするという考えが大切で、そのうちに不文律の規約ができ、運営もスムーズに運ぶものだ」と述べています。

事業の内容

会費を月に二十円ずつ集め、それで薬品や噴霧器を買ったり、汲取口の改善、便所の窓の金網張り、ペール罐購入の補助などいろいろ衛生面に役立てています。ペール罐を使い出したのも全市で茶屋之町が最初で、市の環境衛生協会長である増田さんが一つの夢として、あの風致を害するゴミ箱を廃止するため大いに努力されたのが、今日全市二十数町での罐によるゴミの計画収集となって結実したわけです。最近はまた、国民健康保険の集金と告知書の配布を会で行ない、その報奨金を会の運営費に当て、市のため町民のためにと一石二鳥の効果をねらっています。

今後の抱負

「当町は戦災地区のため、未だに仮設便所の家庭があるが、これを改良したい。ゴミの不法投棄、路上の犬糞処理……まだまだやらねばならないことがたくさんあります」。最後に美しい町づくりの秘決はと聞くと「だれかが一人率先して行動すること、家庭の主婦人の協力を得ること、老人が協力することなど、どこの町でもできることで、それを根気よく続けていくことです」と答えられました。

豊芦原の瑞穂の国は…

ドンチッチ

豊芦原の瑞穂の国は…といっても若い方にはピンとこないが、戦前はよく教えられたものです。戦時中は神国と食糧増産のため至る処に食糧となるものを植え、一坪農園と称して庭を耕し、ゴルフ場や広場はおろか学校の運動場もイモ畑になったものです。その名残りを今なお残し各家庭で菜園を管理しておられる方がたくさんあります。ところがその中には自家用地でなく勝手に人の土地や甚しいのは道路用地を畑にしておられる方があります。近所からは環境衛生の問題が起り他方交通や都市整理の上からもいろいろ問題が残っております。たとえ一坪でも二坪でも楽しんで自由な自分の土地を（または許可を得て）ご使用になるのは結構ですが、前記の様な道路用地等の耕作は一日も早く中止していただきたいものです。どんなものでしょう。

一般の来聴歓迎 —兵庫ユネスコ大会—

芦屋ユネスコ協会では、県と共催で兵庫ユネスコ大会を、きたる十一月十四日、県立芦屋高等学校で開きます。

午前10時から分科会
テーマ・世界平和のためのユネスコの役割・地域ユネスコ活動
午後3時からシンポジウム
・国際理解を深めるには具体的にどうしたらよいか
特別映画「日本の宝」
講師と助言者
古林神戸大学長、田村前兵庫ユネスコ連盟会長、中田高校ユネスコ連盟会長、鳥越兵庫ユネスコ連盟会長、村上近畿ユネスコ事務局長、伊藤京都ユネスコ協会事務局長、植杉県教委社会教育課長、広瀬芦屋ユネスコ協会長

家事相談室

どなたもお気軽においで下さい（無料 秘密厳守）
神戸家庭裁判所

毎月第二・第四水曜日
時間…午前10時～午後4時
場所…前田町・市立公民館
平日は市役所の市民相談室で連絡します

お求め置きください くみ取り券

し尿をくみ取りにまいりましたときは、チケットを必ず用意しておいてください。くみ取りに行ってからあわててチケットを買いに走る家庭がたくさんありますが、作業が遅れて他の家庭にも迷惑がかかりますから、事前に必ず近くの指定販売店でご購入の上、いつでも準備しておいてください。なお、くみ取り業務についてのご意見、ご苦情がありましたら何なりと市衛生課（電二一二二）または清掃中継所（電五九二二）へご連絡ください。

職業案内　ビーズ刺繍・毛糸編・紙編物等の内職あり。その他働きたい人は市民相談室までご来談のこと。

教育と文化

山と積まれた救援物資

衣類・学用品・日用品…など

宮川小学校

伊勢湾台風の悲惨な状況がすでに四十日過ぎた今日でも、日々のニュースは、私たちにいままでになかった惨状をうったえています。本校の児童たちもそれを聞いたり、また見たりして私たちや家の人々となんとかして温かい心持を差し上げたいということどもたちの側から運動がおこりました。とりわけ社会科で台風の単元を新聞の記事や写真を参考にして学習していくと、なんとか私たちの力で被災地のお友だちにはげましをしてあげたいという日常の身近い学習となった学年もあります。十月上旬三日間救援の物資を募集する運動を展開しましたところ

衣類品　約一万五千点
学用品　約　五千点
日用品　約　五千点
現　金　二万三千九百二十九円

の救援金品が集まりました。整理する教室に山のように積まれた物資を整理する係の職員や児童はうれしいやら忙しいやらで大変でした。この品を梱包して市福祉事務所を通じて被災地へ発送していただきました。こどもたちがしたためた慰問激励のお便りも托して被災地へ届けられることでしょう。

これから寒くなる折に温い心で何とほほえましいことだったと思います。（写真右は救援物資の整理にいそがしい宮小生）

台風をうけた人々
――四年生児童

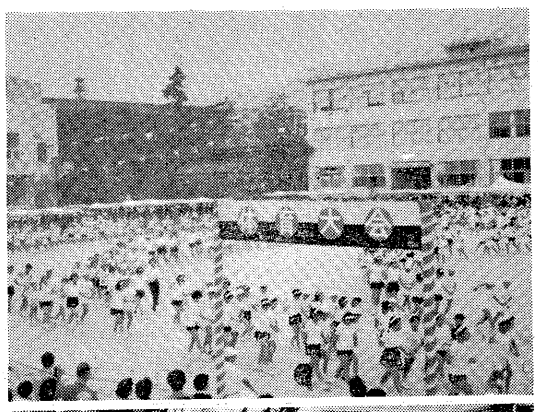
屋根の上に
ぼろぼろの着物やふとんが
ほしてある
水につかった家で
がんばっている人。
ほんとうにかわいそうだ
芦屋に台風がきてたら
きっとつなみで
流されただろう。
だから
お母ちゃんはたくさんの洋
服をあげた。
わたしはジャンパーも
けいとの服もあげた
がんばってね

有意義だった運動会終る

＝精道小学校＝

運動会は、体育上からもまた一般教育上からみても価値の大きいものです。このことをよく認識してその効果を十分にあげるよう、年間的に綿密な計画をたて、あくまで教育活動の一環という観点にたって実施しました。精神の鍛錬は体育目的の重要な一目標です。これは日常の体育時においても、またあらゆる教科の機会にも養われなければならないことですが、運動会はその最も良い機会です。

競技における規律、勝負にこだわらずベストをつくすスポーツマンシップ、リズムやダンスによる優雅にして美を憧る心、組体操における協力美の表現これらの情操を培いたいというのが秋季運動会のねらいの一つでした。だからできあがったものの中に表面的な美しさだけでなく、子供らしい力いっぱいの表現がなされていればよいという大きい気持で指導しましたが、結果的にみればかえって効果があがり有意義な運動会になりました。（下写真）



大活躍の精道中学校

新聞部

昭和三十四年度NHK全国唱歌ラジオコンクールに音楽部が出場ます十月三日王子公園にある児童文化会館で阪神予選に入選続いて十年四日予選通過の十一校が県下大会に臨み、見事県下第一位に選ばれる栄誉をになつた。これは二年連続の快挙である。

なお十月十八日はBKスタジオで近畿大会に出場、全国大会進出への登竜門をくぐるが、昨年は近畿大会第二位の優秀な成績をおさめた。住吉、堀両先生のご指導と部員のチームワークが実ったわけである。

音楽部

毎日中学生新聞、毎日新聞社主催第九回全国中学校新聞コンクールでも「地区佳作」の栄誉をになうことができた。北尾課題曲は　ともだちの歌
自由曲は　さくらさくら

神戸新聞社主催第十一回県下中学校新聞コンクールにおいて第六七号が県下第四位に入賞し、また、

秋とこどもたち

運動会と遠足

精道幼稚園

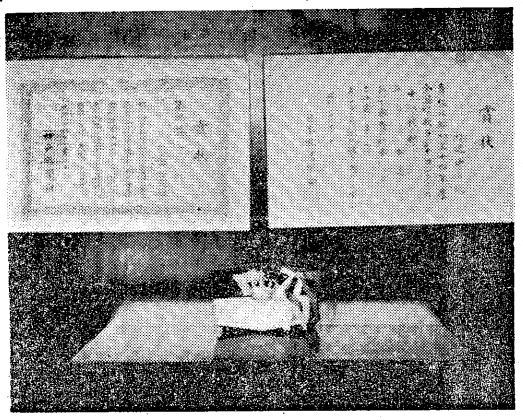
空を見ても、野原を見ても、道端を見ても、風にふれても、秋は快よい。子どもの顔まで、健康に輝やいているさわやかな季節にそってまず運動会の遊びに、遠足に、戸外保育にと自然の中への生活がいきいきとくりひろげられる。

「園庭での運動会」

雨のため小学校庭での運動会が変更され、始めて園庭内での運動会が実施された。庭が狭いのでどうかと案じられたが、思ったより感じよくまとまり、幼稚園らしい和やかな雰囲気が次第に盛りあがってきた。ひと組ごとに四月以来遊んできたテーマの発展が表現遊びになったり、ルールを守って一層楽しい競技になったり、結構ひとりひとりの子どもが楽しむことができた。これは何よりも日頃遊びなれた自分たちの庭での運動会なればこそという良さからであろう。始めからこの予定で会場つくりも子ども達の手でつくらせたらもっと楽しい環境ができたろうと思う。遊具の出し入れも二年々長の子どもたちは大きな喜びを押さえられないような、けなげにも緊張した表情で力を合せながらあっちへやりこっちへやりしていた。認められた喜びであろう。幼稚園教育の中での運動会とはこうして子どもの自主性と協力性を育てる大切な機会であると考えたい。しかし現実は狭い庭をどう使いこなすかという問題である。力一杯走り廻って「すっ」とするというわけにはいかない。だから走り廻って満足できる場所へできるだけ多く出かけて行こうというのが私達の願いでもある。

「広い芝生へ遠足」

秋の遠足は十分心と体の糧になる収穫の多いところへ行きたいものだというのですが分選び探した。少し遠いといううらみがあったけれど明石公園へ行くことにした。ついた途端に「広いな、広いな」とどの子もがいう。広くて見渡す限りの芝生である。思い切り走ったりころんだりした後はどんぐり拾いをしたり林の中を散歩したりした。それからお城である。お城は珍しくまた夢多いものである。先生からお城の話を聞いて石垣の高さに驚いたり辛抱強くよく考え働いた昔の人に感心したりしたけれどさて、それがどう心に残って作用するかは私共教師として大変楽しみである。お城遊びが明日から発展していってくれるのではないかと、少しは期待しながら、とにかくこの快い季節に、心も身体も思い切り伸びて充実させてやりたいものだと心から願っている次第である。（左上写真）



上写真の右は音楽部が県下大会で第一位になったときの賞状。左は新聞部四位の賞状

宮川幼運動会

広いお庭がほしいなあ

ことしの運動会は、よい天候に恵まれ、大変、幸せであった。さわやかな秋空は、人の心に自然に、全身的な励みを与え、意欲的な活発さがわく。全身で物事を感じとる幼児の場合、天候の影響は大きい。

独立して運動会を実施してから本年は五年目。ことしは、特に、和やかな、ゆとりのあるふん囲気で行ないたいと、例年の生活をよく反省した。時間の運び、プログラムの内容などを検討し、日々の積み重ねを重んじ、運動会当日はその山場の生活であることに工夫した。

幸い、子どもたちの生活も、入園当初と異なって、秋の訪ずれと共に落着いたものになりつつある。自然の営みが、春から夏、秋へと移っていくように、子どもの生活も入園当時の個人あそび的なものから、仲間あそびへと発展し、最近は、ゲームあそび、リズムあそびが行なえるほど一人一人の中に、協力する態度が幼児なりに育ってきたようである。教師のよい環境づくりの場で、日々新しく経験が重ねられ成長発展していく。

「先生、いま秋やね」「もう秋でしょう」など尋ねる子どもたち。青いどんぐりの実を大切に持ってきたり、路傍の草をちり紙に結んだり、すばしこい足どりで虫をおっかけたり、草むらに顔をつっこんで、枯葉の香りに驚いたり、幼児なりに、人間らしい生活を感じているらしい。

まるいまるいお月さま
あなたのお国は、遠いのね。と、歌に合せておどる園児のかたわらから、真黄色のガス風船を手に手に出場して来たお母さん方、おじいさんの最高潮で一斉に放つ。高い晴れた秋空へ、小さく小さく、吸い込まれるように消えていく。

幼児さながらの夢のような一瞬。つづいてみのりの秋に、ありがとうと感謝して、最後は鉢まき姿で、お百姓さんと雀の、仲のよい壹年おどりで幕。元気一杯・溢れるような幼児の姿であった。

私たちは、毎年、幼児にふさわしい運動会のあり方を求めて、懸命に努力している。

しかし現状は、むつかしい問題点を生活過程の中で体験する。一日も早く、広い庭がほしい。全園児、全職員、否、地域をあげて、それのみ、祈りつづけている。

茶華道大会

花席　7日　午前10時―午後7時　精道小講堂
　　8日　午前9時―午後5時　同

茶席　7日　午前9時―午後5時　大原町中川邸
　　8日　同　場所未定

担当　7日　宮休庵　中川清二先生
　　8日　裏千家　藤田宗津先生

11月7・8日

どなたでもご自由におこしくださいますようお待ちいたしております。
決して固苦しい催しではありません。

主催　芦屋茶華道協会

第3回16ミリトーキー映写機の操作講習会と検定会

手軽にだれでも写せる16ミリ映画。家庭で、職場で楽しい映画観賞会をと、市公民館では県教育委員会と共催で、16ミリトーキー映写機の写し方講習会とその検定会をつぎのとおり行ないます。

11月27日（金）28日（土）
午前10時―午後4時
操作技術講習会
11月29日（日）
午前9時―午後6時
操作技術練習会
11月30日（月）
午前9時―午後5時
操作技術検定会

場所　芦屋市立公民館
受講料　無料
申込先　芦屋市立公民館へ。ハガキ（前田町一番地）または、電話（五二三六）でも結構です。
締切　先着三十名で締切ります。からいそいでお申し込みください。

市民講座

現在公民館で開講中の、秋期市民講座は、いまからお申し込みいただいても結構です。

文学講座（毎月曜日、午後2時―4時）
11月9日　王朝文学と書道　神戸大学教授　野中春水氏
11月16日　王朝文学と薫香　同右

家庭教育講座（毎金曜日、午後2時―4時）
11月6日　母と子の国語生活　山手中学教頭　大塚美島氏
11月13日　算数と理科の家庭学習について　精道小教頭　沢田民治氏
11月20日　情操をはぐくむ芸能科　山手小教頭　奥野香門氏
11月27日　家庭での理科の学習のしかた　精道中学教頭　石賀　実氏

お申し込みはハガキまたは電話（五二三六番）でどうぞ。

スキークラブ会合

十一月ともなりスキーシーズンがせまってきました。スキークラブ会員の方も入会ご希望の方も多数お集まりください。

日時　十一月十二日（木）
場所　市教育委員会（川西町）

本年度スキープランの打合せ、スキー映画、座談会を行ないます。なお芦屋にも昨年度、スキー愛好者によりクラブができています。初心者の方にもていねいに指導しますから多数ご入会ください。

会費　一年百円と入会費百円
申込先　市教委体育保健課

図書館だより

○斎藤論一　愛情のモラル○アレクサンダー・マーシャク　宇宙の科学○科学捜査研究グループ　科学捜査○生田春月　真実に生きぬく悩み○ポーリング　ノーモア　ウォー○毎日新聞社　四国山脈○ピーター・F・ドラッカー　変貌する産業社会○落合英一　北米の土と英国の皿○池田弥三郎　日本の幽霊○マーク・スローニム　ドストエーフスキイの三つの恋○後藤春之助　日本経済の見かた考えかた○成田義任　ことわざ金言辞典○清水崑　新絵本太閤記○アンドレ・モーロア　パリの女○ジョン・デュウィー　経験と自然○吉本隆明　抒情の論理○山崎安雄　日本雑誌物語○岡村誠三　放射線科学○H・ルクリス　軌道○笹尾利男　真空管工学○北隆館　日本幼虫図鑑○青野寿郎　郷土社会事典○五十嵐新次郎　教室外英語教育○新井鉞一郎　花のない墓標○W・ゲルホーン　言論の自由と権力の抑圧○加藤周一　ウズベッククロアチア・ケララ紀行○チェスター・ボールス　平和への道

その他多数新着、火曜日以外毎日9―17時無料公開、読書相談にも応じます。小槌町市立図書館（電話五九七八）